

該当学年	授 業 科 目 名	担当教員	
1 部保育総合	教育原理	渡部 恭子	
サブタイトル	豊かな教育観の習得	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
本科目は「教育とは何か」を根本的に考え、教育する者を志して学んでいく第一歩を踏み出す科目である。 1. 学習者としてだけでなく教育をする者として考え、新たな知識や視点を習得し、より具体的で豊かな教育像を描く。 2. 様々な教育理論や教育実践に触れる中で、自分の教育観がどのような特徴をもつのかを考える。 3. 互いの教育観を理解しようと努め、認め合う姿勢を養う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「幼児教育に対する情熱及び責任感を身につける」ことを目指す科目である。 まずは自分が経験してきた教育を振り返り、教育が各々の生涯に少なからぬ影響を与えていることを認識する。その上で、教育の重要性を理解し、幼児教育に携わる者に必要となる教育観について自ら考え、教育を絶えず改善していく情熱と責任感を習得することを目指す。			
授 業 の 方 法			
導 入：振り返りに書かれた意見をまとめ、質問に回答しながら、前回の授業内容を振り返る。 展 開：適宜互いの考えや価値観を共有する。必要に応じて、自分の考えを言葉で表現し、互いに読み合うことで共有する。講義や意見共有を通じて、教育に携わる上で必要となる幅広い視野や、柔軟な思考力、自己分析力を養う。 まとめ：振り返りを記入することで、授業内容を自分の言葉でまとめる。感じたことや気づきを文章で表現することにより、自分の考えを客観視し、理解を深める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：特に指定しない。 参考図書：『教育の原理〔第四版〕』 沼野一男他 学文社 2010 年 『子どもの教育の原理―保育の明日をひらくために』 古橋和夫編著 萌文書林 2011 年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
期末に提出するレポート、小テスト、授業毎に記入するコメント（振り返りを含む）や提出物の内容を総合的に評価する。 欠席者には課題が出され、指定された期日までに提出されなかった場合は減点する。さらに、その欠席分課題が期末レポート提出日までにすべて提出されなかった場合、「授業での提出物」は評価できず 0%とする。		レポート	50%
		小テスト	20%
		授業での提出物	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
授業の方針や評価方法については、初回の授業でより詳しく説明する。 第 2 回の授業において、レポート課題の根幹に関わる講義を行う。 ノートの指定・提出はしない。 wtbnkyo5@wa.seitoku.ac.jp			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス： 教育原理を学ぶ意義とは (授業の方針を確認し、これまでの自分の教育観を言葉で表現する)	身近だが漠然としている物事を考える姿勢
2回	教育の矛盾 (教育には常に矛盾が存在し、矛盾と共存していくことを理解する)	教育する者が常に抱える問題と向き合う姿勢
3回	教育の視点 (教育の目的・内容・方法に着目し、非認知能力を意識する)	現場での実践を教育的視点で見る力
4回	西洋教育史(1) 時代によって変化した教育像と子ども観 (子どもが「小さな大人」として捉えられた時代からの変化を学ぶ)	教育像と子ども観の密接な関わりを捉える力
5回	西洋教育史(2) 教育家の思想と実践 前編 (ペスタロッチやフレーベルの教育思想とその実践を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
6回	西洋教育史(3) 教育家の思想と実践 後編 (デューイやモンテッソーリの教育思想とその実践を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
7回	日本教育史(1) 近代学校教育の導入と幼稚園 (日本に近代学校教育が定着し、幼稚園が普及していく過程を学ぶ)	近代学校教育が定着していく流れを捉える力
8回	日本教育史(2) 教育家の思想と実践 (倉橋惣三など日本の幼児教育を大きく動かした思想を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
9回	子どもの権利 (「子どもの権利条約」の全条目に触れ、権利を守る重要性を学ぶ)	子どもの権利を意識し守ろうとする力
10回	世界の子どもたち (各国で行われている教育の様子や、多文化理解の必要性に触れる)	世界各国の教育情勢に関心を抱く姿勢
11回	教育制度の基礎 (憲法・教育基本法・学校教育法に関する基礎知識を習得する)	現代教育の仕組みに関する基本的理解
12回	生涯教育 (生涯学習を身近に捉え、幼児教育の重要性を再確認する)	生涯教育における幼児教育の位置づけの理解
13回	教育の限界と危険性 (教育にも限界が存在し、教育万能論を回避する必要性を理解する)	教育の限界と危険性について想定する力
14回	教育の可能性 (職場教育も想定しながら、自分の教育観を改めて見つめる)	自分の教育観の特徴や変遷を振り返る力